

学校評価報告書

1 生徒のアンケートから

(1) 成果

- ①学校生活への満足度が高い。
 - ・「学校は楽しい」が約 90%
 - ・「安心・安全な学校生活」96～97%
 - ・「授業では『分かった』が実感できた」88～90%
- ②思いやりや協働性が育っている。
 - ・「思いやり・感謝」89～97%
 - ・授業や学校行事では 90%を超える項目が多い。
- ③授業での対話的な学びが定着している。
 - ・「自分の考えを伝えたり深めたりする」90%
 - ・「ICT 活用」84～91%

(2) 課題

- ・自己肯定感（自分にはよいところがある）は約 65%と低い。
- ・家庭学習（1 年 86%、2 年 69%、3 年 70%）・読書習慣（1 年 40%、2 年 22%、3 年 33%）が十分ではない。
- ・情報モラルやゲーム・スマートフォンとの付き合い方に課題がある。（1 年 58%、2 年 46%、3 年 48%）

2 保護者のアンケートから

(1) 成果

- ①学校への信頼度が高い。
 - ・「学校生活の安全・安心」94%
 - ・「思いやりの育成」90%
- ②特色ある教育活動を評価している。
 - ・「学校行事・縦割り活動」87～91%
- ③学校の教育活動への評価は概ね 80%以上
 - ・「いじめ対応」
 - ・「健康づくり」
 - ・「情報発信」

(2) 課題

- ・家庭学習の定着が低い。（1 年 56%、2 年 59%、3 年 76%）
- ・家庭での読書習慣が大変低い。（1 年 24%、2 年 24%、3 年 29%）
- ・家庭での情報モラル・ゲーム利用に課題がある。（1 年 40%、2 年 41%、3 年 57%）

※保護者は学校の取組を評価する一方で、「家庭で取り組む内容」に厳しい評価をしていることが特徴である。

3 教員のアンケートから

(1) 成果…多くの項目で 90%～100%の高い評価をしている。特に以下の項目について、高い自己評価となっている。

- ・学校の安心、安全
- ・授業改善
- ・ICT 活用
- ・生徒指導
- ・学校行事

教職員間で教育活動が共通理解のもと、実践されていることが分かる。

(2) 課題…生徒の日常生活や教員の業務に関する部分に課題がある。

- ・ゲーム・インターネットの利用 (57%)
- ・家庭学習 (57%)
- ・ICT 機器の効果的な活用 (79%)
- ・業務改善が進められている。(43%)

※「業務改善が進められていない。」と回答した教員は 57%だった。学校で業務改善を進める際は、「忙しいから減らす」のではなく、教育効果を維持・向上させながら、限られた時間を子どもたちのために使えるようにするという視点が重要かもしれません。

4 三者比較から見える特徴

観点	生徒	保護者	教員
学校生活の満足	◎ (約 90%)	◎ (約 89%)	◎ (約 100%)
安全・安心	◎	◎	◎
思いやり・人間関係	◎	◎	◎
学校行事・縦割り活動	◎	◎	◎
授業	○	未調査	◎
自己肯定感	△	未調査	○
家庭学習	△	△	△
読書習慣	△	×	×
情報モラル・ゲーム	×	×	×

※授業項目で、仲間と関わることで自分の考えを深めることができたと答えた生徒は 92%、ICT 機器を授業で活用することができた生徒は 88%である一方で、授業で自分から新たな課題を見つけ出すことができた生徒は 71%である。

5 総合分析

(1) 成果

- ・生徒・保護者・教員の三者とも、学校生活の安全・安心や学校生活への満足度を高く評価しており、安心して学べる教育環境が整っていることが伺える。
- ・学校行事、体験活動など、特色ある教育活動は、生徒の成長につながる取組として三者から高い評価を得ている。
- ・思いやりや協働性、対話的な学びなど、学校が大切にしている教育活動が定着し、教育目標の実現に向けた成果が表れている。

(2) 課題

- ・生徒の自己肯定感や主体的に学ぶ力には改善の余地があり、自ら課題を見つけ、挑戦する学習活動の充実が求められる。
- ・家庭学習や読書習慣の定着については、生徒・保護者・教員の三者が共通して課題として捉えており、学校と家庭が連携した継続的な取組が必要である。
- ・ゲーム・スマートフォン利用や情報モラルについては、三者とも評価が低く、家庭との連携を一層深めながら、望ましいメディア利用習慣を育成していく必要がある。